

**第19回福山教育フォーラム分科会(概要)**  
～学習機能を発揮する学校図書館モデル校事業～

**1 講話「学校図書館が果たす役割, 今求められていること」(P4・5, 11～14)**

**講師: 赤木 かん子 図書館改装アドバイザー**

○ 「学校図書館は, 最小で最先端で最末端の図書館である」

学校図書館の利用者は, 主に学校に在籍する児童生徒と教師である。

利用者は現在を知り, 過去や未来に目を向けようとするため, 学校図書館は, 新しい情報が書かれた本(最先端)が必要となる。

規模は大きくないが, 学校図書館を窓口(最末端)として, 世界中の学術機関と繋がりながら学びを進めることができる。

○ 「本の管理について」

博物館は基本的にものを貸さないが公共図書館は本を貸す。なぜかという、その本がオリジナルではないからである。学校図書館にあるものも、コピー商品であり、汚れたり、傷ついたりするのは想定内としてどんどん貸出しを行ってほしい。

**2 協議「図書館の利活用」**

**(1) 各校の実態(P18・19)**

常時開館している。学校図書館で落ち着いて過ごせない子どもがいたり、貸し出した本がもとの棚に戻らなかつたりする。他の学校の様子を聞きたい。

○ 考え方・対応

交流の場として運営している。話し声があっても、禁止とはしていない。

年度初めにオリエンテーションを行い、図書館の使い方(イラスト分類シールで絵合わせのようにして本を探すなど)を伝えて開館している。

利用マナーについて気づきがあれば、そのつど話をしている。

○ 返却の仕方の工夫

カウンターの横に返却用ブックトラックを置く。

**(2) 取組例(P15～17)**

○ 計画的な授業での活用計画立案

○ 委員会活動